

『国際テロリズム要覧 2022』

世界各地でテロ対策は強化された。だが、依然として憂慮すべき状況にある。

公安調査庁



国際テロリズム要覧
2022Web版
QRコード



全ては国民の安全のために

公安調査庁は、公共の安全の確保を図ることを任務としている。わが国の情報関係機関によって構成される情報コミュニティのコアメンバーとして、国際テロをはじめ、公共の安全に影響を及ぼす恐れのある国内外の諸情勢に関する情報を収集・分析し、必要に応じて官邸をはじめとする関係機関に提供するなど、政府の政策決定への貢献に取り組んでいる。また、収集・分析した情報については、公刊物、各種講演会などを通じて広く情報発信している。

『国際テロリズム要覧 2022』の発行について

公安調査庁では、国際テロリズムの潮流および各種組織の実態を把握し、これらを整理するため、1993(平成5)年から『国際テロリズム要覧』を発行している。通算で第19版となる2022年版は、主に2022年1月までの国際機関および各国政府の発表、研究機関の報告書、内外の各種報道などの公開情報を基に作成したものであり、政府関係機関、研究機関、海外に進

出する企業等に配布するなどしている。

なお、公安調査庁はテロ組織などを認定、または指定する事務は行っておらず、『国際テロリズム要覧』中のテロ組織などに係る記述は、公安調査庁の独自の評価を加えたものではない。

『国際テロリズム要覧 2022』のポイント

2022年版では、まず2021年の国際テロ情勢を概観し、2001年の米国同時多発テロ事件以降、20年にわたり世界各地でテロ対策が強化されたものの、依然として「イラク・レバントのイスラム国」(ISIL)、「アルカイダ」などによる国際テロの脅威が継続している状況に触れた。また、同年には「アルカイダ」など関係性を有するとされる「タリバン」がアフガニスタンで再び実権を掌握したことで、同国を起点とする国際テロが将来再び発生する可能性が指摘されている。これらを踏まえ、特集として“対テロ戦争の20年～米国同時多発テロ事件から「タリバン」復権に至るまでの国際テロ情勢と今後の注目動向～”を取り上げた。

『国際テロリズム要覧 2022』の主なポイントは次の通りである。

1. 2021年の国際テロ情勢

(1) ISILおよびアルカイダの動向

ISILは、イラクとシリアでテロおよび宣伝活動を継続した。テロ活動においては、治安当局の取り締まりが及びにくい山間部、砂漠地帯などに潜伏しつつ、イラクの首都バグダッドを